

熊本地域医療センターだより

院長 清住雄昭

令和元年(2019年) 12月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

通算175号
2019 12 月号

熊本地域医療センター 理 念

かかってよかった。

紹介してよかった。

働いてよかった。

そんな病院をめざします。

contents

本日のお勧め	P2
連携の会を開きました	P2
薬剤部の教育体制について	P3
がんリハビリテーション研修会に参加しました	P4
気管挿管実習を終えて	P4

「友達の輪～Relayトーク 第2弾」 友達の輪、あなたにも！



むかって左から家村先生、柳先生、私

医師会員の皆さん、こんにちは。最近、地域医療センターだよりを読まれましたか？先月号から友達の輪のコーナーが始まり、トップバッ

ターで新町いえむらクリニックの家村昭日朗先生が素晴らしい文を載せておられます。この友達の輪のコーナーが始まった経緯についてお話しします。

まず、熊本市の他の基幹病院と比べた場合、地域医療センターの一番の特徴は、医師会員との絆が深いことではないでしょうか？しかし、ここ最近の地域医療センターだよりでは、院外の医師会員の原稿や写真の掲載が少なく、開業医の私にとっては、やや親しみにくい便りとなっていました。そこで、オープンシステムを用いた小児外科手術のために地域医療センターへ行った際に、麻酔科の柳文治先生にこの感想を伝えました。後日、地域医療連携室長でもある柳先生から連絡があり、「以前、タモリのテレビ番組笑っていいとも！であっていたテレフォンショッキングのコーナーのように、院外の医師会員の原稿と写真を繋いでいくコーナーを地域医療センターだよりにも設けましょう。院外医師の立場で、地域医療センターについて思うこと、地域医療センターで働いて感じたこと、地域医療センターへの提言などについて何でも書いてもらいましょう。最初の原稿を家村先生にお願いしました。」とのことでした。私は、「それは素

ひぐち小児科・小児外科 樋口 章浩

晴らしいアイデアで、ぜひお願いします。」と伝えました。

家村先生とは熊本高校2年1室の時の同級生であり、友達の輪2回目の原稿を私に書くように指名して頂きました。高校時代、家村先生は、天性の人懐っこさでクラスの皆から好かれ、クラスのまとめ役でした。

本題の地域医療センターと私の関わりは、大きく3つあります。まず、オープンシステムを用いた小児外科手術で手術室を利用させていただいており、開業以来17年間で650例以上の手術を施行しております。今後も「継続は力なり」を胸に、症例を重ねていきたいと思っています。よろしくお祈りします。次に、小児科救急外来で、出動協力医として診療しています。看護部長が推進されるポリバレント・ナースに助けられながら、診察しています。そして、患者さんのCTやMRI検査を依頼しています。気持ちの良い予約受付と、丁寧な返事にいつも感謝しております。

第3回の友達の輪の原稿は、内尾土井クリニックの土井俊徳先生にお願いしました。俊徳先生とは熊大医学部の同級生で、奥様の國子先生とは高校の同級生です。大学時代、土井先生がバスケット部のキャプテン、私がバレー部のキャプテンで、隣のコートどうして切磋琢磨していました。次回、土井先生よろしくお祈りします。

医師会員の皆さん、いつかあなたにも、懐かしい知り合いから電話がかかってきて、友達の輪の原稿を依頼されるかもしれません。そのときは、快く引き受けてくださいね！

本日の お勧め

外科 岡部 弘尚



岡部 弘尚（ひろひさ）と申します。天草出身で熊本マリスト学園高校を経て佐賀医科大学を卒業しました。マラソンや登山、サッカー、料理、絵画などが趣味です。

小川教授の最後の第二外科入局員で、天草中央病院や済生会熊本病院で外科研修を行い、熊本大学消化器外科 馬場教授のもと大学院を卒業後、ピッツバーグ大学で肝臓の基礎研究を行いました。帰国後、九州大学で1年間肝移植診療に携わり、済生会熊本病院1年間、熊本大学に2年間、主に消化器外科診療に従事し、

今年4月に地域医療センターに赴任いたしました。

今後努力していきたいことは3点です。1点は高齢化社会の浸透とともに今後ますます重要となる内視鏡外科を推進すること。2点目は最新のガイドラインに従った正しい診療提供。特に肝胆膵領域においては手術困難と思われる症例についても、外科的な治療の適応についてご相談いただければ幸いです。手術だけではない集学的な治療戦略で、外科的な治療成績は向上すると信じております。3点目は治療方針決定に難渋する例に対して、過去の報告に基づいた情報を収集し、最適な外科診療を提供することです。

初心は全く変わっておらず、一生懸命診療に取り組み患者さんを助けることが信条です。後輩の指導にも携わる年頃となってきました。今後も積極的に学会発表や論文報告を行い、最新の情報収集活動を行ってきたいと思います。

地域医療センターで最高の診療を提供できるよう日々精進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

熊本地域医療センター・連携の会を開きました



地域医療連携室長兼手術部部長 柳 文治

の皆様のご協力が欠かせない。この連携の会を会員と常勤医との顔の見える関係作りの役に立てたいというお話でした。

清住雄昭院長からは、厚生労働省の再編要請の根拠が納得行くものではないことや激戦区で黒字を出し続けている当院の実績を評価すべきとお話がありました。続いて、平井信孝循環器内科部長から昨年よりグレードアップした動画で「本日のお勧め」医師4人と「患者紹介電話相談」開設の紹介がありました。柏原光介副院長は、一人一人、自作の似顔絵とホラー映画タイトルを組み合わせた診療部医師の紹介がありました。地域医療連携室長としては、検査事務を通してご紹介いただいた患者さんが、当院での追加の検査や各科受診を経て手術になり麻酔を担当できるのがありがたくそのようなケースを増やしたいとお話しました。

熊本市医師会前会長の福島敬祐先生の乾杯で始まり、会員の先生方と職員で有意義な懇親の場を持つことが出来ました。懇談の中で「プレゼンは良かった。上から目線ではなく会員目線でのよい連携の会だ」という感想をも聞かれました。閉会のご挨拶は、田中英一医師会副会長からいただきました。

ご参加された皆様には改めて御礼を申し上げますとともに、患者さんのご紹介を含めて、より一層のご支援をお願いいたします。

10月24日熊本ホテルキャッスルには、雨天で渋滞の中にもかかわらず市外会員10名を含む150名を超える先生方にお集まりいただきました。ご参加いただいた先生方にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。園田寛医師会長のご挨拶では、38年経過し老朽化した熊本地域医療センターの建て替えを11月の臨時代議員委員会で承認していただいた上で進めていく。新しい病院の基本構想は、1) 断らない病院、2) 在宅医療の連携・充実、3) 休日夜間急患センターの継続を挙げ、会員の先生方の後方支援を第一に考えている。先般厚生労働省から再編要請された424公立・公的病院の中に当院が含まれていたが、2017年6月の1ヶ月間の9項目の診療実績を分析しているもので、車で20分圏内に同程度の実績の病院が複数ある場合も要請対象としていて、到底納得できるものではなく、新病院建設に影響を及ぼすものではない。建替のためには会員



「薬剤部の教育体制について」

薬剤部係長 横田 崇



平素は大変お世話になっております。前回（162号；2018年11月号）は、薬剤部の業務内容についてご紹介致しましたので、今回は主に薬剤部の教育体制（資格取得及び薬学部実務実習指導）について紙面をお借りして紹介致したいと思います。現在と異なり、数年前までは様々な事情によって人員不足が続いたため（4年前まで5～9名で推移）、病棟担当薬剤師の常駐化や病棟業務が実施困難な状況にありました。このため、薬学部からの実務実習の受入れについても十分に行うことができませんでした。

その後、お陰様で人員も13名となり、部内目標でありました病棟薬剤業務実施加算の算定並びに日中の病棟担当薬剤師の常駐化を2017年12月より開始することができました。この他、外科外来等における術前中止対象薬の確認、抗がん剤・TPN調製を2名の薬剤師で行う体制の確立やDI業務の充実等も実現しています。この他にも取り組むべき課題や改善が必要な業務が多々ありますが、今後それらの業務を実現するためにも知識の向上や経験を積み重ねることが不可欠と感じています。

自己研鑽を行うためには、自分自身の得意・不得意な分野を把握し知識の向上のため学会や研修会・講習会に参加する、そこで学んだ内容を日常業務や委員会活動に還元する、日常業務の中での気づきや発見を行うための観察力を高める、実務実習生への指導によって人に伝える能力を養う、ことなどが挙げられます。このため、各スタッフが様々な分野の資格取得及び知識向上を目指しています。主な領域としては、医薬品安全管理、がん薬物療法、NST（栄養管理）、感染管理、糖尿病療養指導、小児薬物療法、アレルギー関連、緩和薬物療法、医療情報管理などがあります。これらの内容は病棟業務やチーム医療及び委員会活動と密接な関係があるだけでなく院外での活動や地域連携とも関わりが深い分野です。具体的には、

- ①医薬品安全・医療情報管理：医療安全の向上、病棟業務の充実、地域連携
- ②がん化学療法・緩和薬物療法・感染制御・栄養管理：
 - 1）がん化学療法：がん化学療法委員会への参画、レジメン管理や服薬の説明等
 - 2）緩和薬物療法：諸症状に対する薬剤の説明、副作用モニタリング等
 - 3）感染制御：ICTラウンド、抗菌薬使用状況等の把握、施設間の地域連携
 - 4）栄養管理：NST回診への参画、情報提供及び処方提案等が挙げられます。

この他、学会等で得られた知識を基に、更なる業務展開に繋げて行きたいと存じます。

また、これら活動は薬学部実務実習の指導にも活かしています（例年3～5名受入）。人員の回復により、数年前と比べて実習指導に関わるスタッフの数も増加し、実習カリキュラム内容の幅も広がりました。今後更に充実した実習を行えるよう検討と改善に努めて参りたいと存じます。『充実した実習内容』によって『見学・入職希望者が増加』し、その結果『業務の充実と発展』に繋げていくことが現在の目標です。

今後ともご指導ご助言頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

緩和ケアに関する研修会のお知らせ

日時／令和2年（2020年）1月31日（金）18：30～19：30

場所／熊本地域医療センター新館6階ホール

テーマ／「終末期患者の身体抑制」～緩和ケア病棟からの情報発信～

対象者／熊本県内の医療・介護関係者

※事前申込不要 ※本研修会は、PEACEプロジェクトではありません。

がんリハビリテーション研修会に参加しました

リハビリテーション部 鳥崎 友恵



医師会の先生方には平素より大変お世話になっています。

9月14、15日 横浜で開催された神奈川県がんリハビリテーション研修会に参加してきましたので、そのご報告をさせていただきます。がんリハ研修は医師・看護師・リハスタッフでチームを組んで参加する事が参加条件となっており、当院からは医師1名、看護師1名、PT1名、OT2名の計5名で参加してきました。講義、グループワークや模擬カンファレンス等、実践に活かせる研修内容で、充実した2日間を過ごす事が出来ました。

当院では周術期のリハから化学療法・放射線療法、緩和期でのリハ等、様々な病期の患者さんに対するがんリハが求められています。医師・看護師をはじめとした多職種に、がんリハの必要性が浸透しつつありますが、がんリハが必要な全ての患者さんに、もれなく必要なリハが提供出来ているとはまだ言えない状況です。まずは多職種が参加する入院時カンファレンスで対象者の拾い上げを徹底する等、必要な患者さん全てに質の高いがんリハが提供出来るよう努力していきたいと考えています。適切なリハが提供される事で、入院期間短縮や円滑な退院支援にも繋がると考えられるため、院内だけでなく地域医療にも貢献できればと考えています。今後共ご指導の程よろしくお願い致します。

気管挿管実習を終えて

有明広域消防本部 救急救命士
牛島 裕一郎

この度、9月2日から約2ヶ月半、貴院手術室において気管挿管実習でお世話になりました有明広域消防本部（荒尾玉名地区管轄）の牛島裕一郎です。

救急現場で心肺停止傷病者に対して「気管挿管」を実施するためには、麻酔科専門医の指導による病院内実習（成功30症例以上）が必要となります。

実習では、麻酔科の総合診療部長 高群先生と手術部長 柳先生のご指導の下、「気管挿管」について技術・知識の教育は勿論のこと、「呼吸の観察」から「気道管理」まで、救急現場で必要となる処置を幅広くご教授くださいました。更に、手術室に勤務されている看護師・看護助手・臨床工学技士の皆様には、業務多忙にも関わらず、いつも気に掛けてくださり、きめ細かいサポートをして頂きました。

今回の病院実習で、いつも救急車を受け入れてくださる貴院が、私にとって新たな“母校”になったことを大変嬉しく思っております。皆様、本当にありがとうございました。最後に、今回の実習で快くご協力頂いた多くの患者様に感謝申し上げます。



熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

今月の勉強会はお休みです。

今回は、1月27日（月）
「肝臓外科的治療の Up date」
CC 0：その他
外科 岡部弘尚先生の予定です。



熊本地域医療センター

- 医師へ直接紹介される方はこちら ☎096-363-3311 (代表)
- 何科に紹介するか迷っている場合はこちら (平日9:00~17:00)
- ※ベテラン看護師が対応いたします! ☎096-372-0600
- 画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室) ☎096-366-1323 令和元年8月作成

編集後記

Y ⇒ 連携いただいた師走になりました。連携の会を含めまして、令和元年もお世話になりました。「友達の輪~Relayトーク」は、来年からは偶数月に掲載する予定です。患者さんのご紹介も含めまして、来年もよろしくお祈りします。

S ⇒ 今年も、熊本地域医療センターだよりをご愛読いただきありがとうございました。新たなシリーズも増え、ますますパワーアップしているセンターだよりを来年も宜しくお願い致します。

H ⇒ 入社してちょうど1年が経ちました。Sさんには大変お世話になりました。これからも引き続きよろしくお祈り致します!!